

BASE Vol.121

実践的基礎知識 育てる投資編(2)

<投資環境の確認 ～先進国債券の利回り低下～>

2020/07/22

投資環境の確認 ～先進国債券の利回り低下～

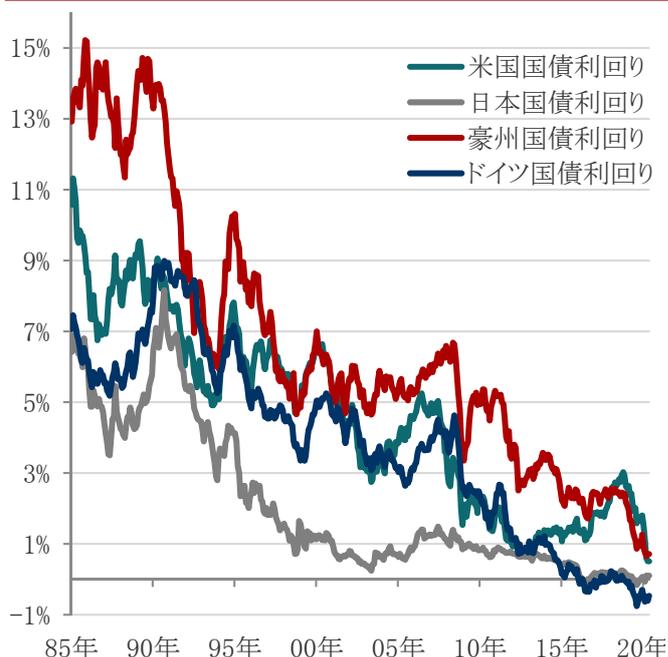
1980年代以降、先進国国債の利回りは大きく低下してきました。かつては高い利回りによって「資産を成長させる」ための「育てる投資」としても活用できる先進国国債が存在しましたが、そのような国債がほとんど見当たらなくなった現在、「育てる投資」は株式を中心に考えていく必要があります。

先進国債券の利回り低下

先進国の成長率とインフレ率の低下に伴い、先進国国債の利回りは過去30年に渡って大きく低下してきました。中でも日本国債やドイツ国債の利回りは大きく低下し、10年債利回りまでマイナスになる事態となりました(図表1)。

債券利回りが高い状態から投資をスタートした場合、大きなインカムゲインが得られる上、利回りが低下すれば債券価格が上昇し、キャピタルゲインも期待できます。一方、債券利回りが低い状態から投資した場合、小さなインカムゲインしか得られないばかりか、利回りが上昇すれば債券価格が下落し、キャピタルロスの懸念も生じます。

図表1:主要国の国債利回りの推移



期間:1984年12月末～2020年6月末

日本国債:FTSE日本国債指数、米回国債:FTSE米回国債指数、豪州国債:FTSE豪州国債指数、ドイツ国債:FTSEドイツ国債指数
出所:ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

実践的基礎知識 育てる投資編(2)
 <投資環境の確認 ～先進国債券の利回り低下～>

外債投資のリスク・リターンのバランス悪化

自国の国債利回りの低下を踏まえ、少しでも利回りの高い先進国債に投資したいと考えた場合、外債投資が選択肢の1つとして考えられますが、外債投資には為替変動リスクが伴います(図表2)。

債券の利回りが高く、大きなインカムゲインが期待できる場合には為替変動リスクとも十分に釣り合いますが、現在のように利回りが低い状況ではとても釣り合いません。

こうして、世界的な債券バブルとも言える時代が終わりを告げようとしています。リスクに見合う利回りを提供してくれなくなった債券から株式への資金シフトが起き始めており、今後もこうした動きは拡大していくものと考えられます。

かつては高い利回りによって「資産を成長させる」ための「育てる投資」としても活用できる先進国債が存在しましたが、もはやそのような債券はほとんど見当たりません。これからの「育てる投資」は株式を中心に考えざるを得ないのです。また、債券からの資金シフトの中では、株式投資の中でも価格変動リスクが小さいものや、倒産リスクの低いもの、インカムゲインによるパフォーマンスの下支えが期待できるものが注目されると考えられます。

図表2:外債投資のリターンのイメージ

